

臨床検査学特別研究

[演習] 第1～3学年 通年 必修 6単位

《担当者名》○幸村 近 藏満保宏 江本美穂 吉田 繁 坊垣暁之 田中真樹 丸川活司 高橋祐輔 遠藤輝夫 鈴木喜一 松尾淳司 山崎智弘

【概 要】

本科目は臨床検査学領域の研究能力を養うと共に、広い分野から独創的な研究テーマを選び方法論を確立し研究を遂行できる能力を得ること、さらにその成果を医学の分野に還元できる能力を修得することを目的とする。共通科目「生命医療倫理学特講」で修得した研究倫理や医療倫理を基礎に、「最新臨床検査学研究法特講」で修得した研究に対する思考力と技術を身に付け、学生が希望する専門性の高い研究について指導教員の専門領域から選定する。研究テーマ、研究の実施、論文作成、学会発表そして専門性の高い雑誌に論文投稿し、博士課程の修了に相応しい研究を完成させる。

【学修目標】

- 1) 臨床検査学領域の研究能力とその成果を医学の分野に還元する能力を養うために研究課題を実践し、優れた博士論文の作成を実施する。
- 2) 研究計画を立案できる。
- 3) 研究結果を解析・考察できる。
- 4) 研究結果から課題を見つけ、解決策を見出すことができる。
- 5) 研究成果をプレゼンテーションできる。
- 6) 研究成果を論文化し投稿できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ～ 90	生体機能解析	生理学的手法を用いて生体の情報収集・機能解析を行う。 生化学的手法、分子生物学的手法、核磁気共鳴画像法を用いて蛋白質などの分子の機能解析を行う。 課題調査・研究計画立案・研究・研究論文作成・学会発表・論文投稿を指導する。	幸村 近（研究指導） 藏満保宏（研究指導） 江本美穂（研究指導補助）
	生体情報による病態解析と診断法の構築	ゲノム情報や細胞内外の分子情報から遺伝病、免疫疾患、感染症などの病態解析や診断法の構築、評価を行う。課題調査・研究計画立案・研究・研究論文作成・学会発表・論文投稿を指導する。	吉田 繁（研究指導） 坊垣暁之（研究指導）
	造血器腫瘍・固形癌の分子的機能解析	分子生物学的手法を用いて、腫瘍細胞の機能解析を行う。 分子病理学的検索に用いられるゲノム解析技術の安定化について解析を行う。課題調査・研究計画立案・研究・研究論文作成・学会発表・論文投稿を指導する。	田中真樹（研究指導） 丸川活司（研究指導補助） 高橋祐輔（研究指導補助）
	化学的分析方法を用いた病態解析	化学的分析手法を用いて、試料中における各種物質の分離・分析を行う。これにより、病態解析の指標となるバイオマーカーの探索、および検査法の構築を行う。課題調査・研究計画立案・研究・研究論文作成・学会発表・論文投稿を指導する。	遠藤輝夫（研究指導） 鈴木喜一（研究指導補助）
	感染生物の性状解析	感染症を引き起こす病原体について性状解析を行う。課題調査・研究計画立案・研究・研究論文作成・学会発表・論文投稿を指導する。	松尾淳司（研究指導） 山崎智弘（研究指導補助）

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

※授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

研究態度及び課題研究到達度により総合的に判断する。

【評価基準】

自立的な研究者としての基礎的能力（研究課題立案能力、研究推進能力、結果の解析と考察力、論文作成、プレゼンテーション能力と論文を投稿する能力）を理解し、論文調査、研究倫理、研究の実施、結果の解析と考察、論文作成能力、研究成果発表の実施、さらに研究論文を投稿した者に対して単位を付与する。学修目標に記載する能力（知識、技能、思考力、判断力、表現力

など)の達成度に応じて、優(80点以上)、良(70点以上)、可(60点以上)の評価を与える。

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP1) 臨床検査学の研究者に求められる研究公正や研究安全を含む倫理観を身につけていること。

(DP2) 臨床検査学研究を牽引する研究者として、最新の知識、高度な研究技法や研究機器の活用に関する知識を身につけていること。

(DP3) 臨床検査学の高度な研究を立案・遂行する能力と、教育的指導力を身につけていること。

(DP4) 国内外の保健・医療分野の発展に貢献する研究内容を学術論文の形で発表することで社会へと還元できる能力を身につけていること。

【実務経験】

幸村 近(医師)、藏満保宏(医師)、吉田 繁(臨床検査技師)、坊垣暁之(医師)、田中真樹(歯科医師)、丸川活司(臨床検査技師)、高橋祐輔(臨床検査技師)、遠藤輝夫(臨床検査技師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関ならびに大学における教育・研究・臨床経験をもとに研究指導を行う。